

332

2382

2

約改訂ノ意義ノ大半ハ没却スルニ至ルヘシ固ヨリ本條約改訂ノ施  
 策ノミニ依リ直チニ所期ノ效果ヲ期待スルハ早計ニ失スルト雖モ  
 他ノ環境條件就中軍事情勢ノ推移トモ相俟ツテ將來機熟スル時重  
 慶ヲシテ息戰和平ニ轉向セシムヘキ政略上ノ用意トシテハ早キニ  
 及ンテ是カ因資ヲ播キ置カサルヘカラス此ノ點ヨリ見ル時ハ本件  
 新條約ノ内容ハ重慶側ヨリ見テ實質的ニ和平條件トシテノ魅力ナ  
 キ限リ其ノ政治的效果ハ當初ヨリ期待スルヲ得ス更ニ今後戰局ノ  
 推移ニ伴ヒ大陸ニ於ケル情勢ハ深甚ナル注意ヲ要スルモノナル處  
 情勢悪化スル場合ト雖モ和平地區ノ全般の破綻ヲ來スカ如キコト  
 ハ極力之ヲ防止スル如ク事前ノ手當ヲ怠ルヘカラス此ノ點ヨリ見  
 テ本件條約改訂ハ一面國民政府ノ國內政治上ニ於ケル立場ヲ有利  
 ナラシムルニ資スルモノタルヲ要ス又今後米英ハ支那大陸ノ戰略  
 的價值ニ鑑ミ對支政謀略ヲ愈々強化シ來ルハ必定ニテ我方トシ

IMT 458

334

2382

秘

秘

331

I

一、條約改訂ノ目的ニ付テ  
 大東亞政略指導大綱ノ示ス所ニ依レハ本件條約改訂ハ「大東亞戰  
 争完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ徹底具現ヲ圖ル爲ニ之ヲ行フ  
 モノニシテ又本件條約改訂ヲ含ム大東亞政略態勢ノ遂備ハ特ニ支  
 那事變ノ解決ニ資スルニアリ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根  
 本方針」ハ日支提携ノ根本方針ニ則リ專ラ國民政府ノ政治力ヲ強  
 化スルト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一  
 體戰爭完遂ニ邁進スルヲ本體トシ右根本方針ニ於テ當初ヨリ既ニ  
 之カ具現ノ一方策トシテ日華基本條約ノ改訂ノ件モ考慮セラレア  
 ル所ナリ  
 今次條約改訂ノ主タル狙ヒカ前述ノ經緯及全般ノ情勢ヨリ見テ重  
 慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ニ存シ從ツテ其ノ狙ヒヲ逸スル時ハ本條

IMT. 458

333

日華基本條約改訂同盟條約締結要綱案說明書  
 昭和十八年九月十八日

334

2382

適當ナリ、而シテ右新ナル關係トハ五月三十一日御前會議決定ニ  
準據シ同盟關係タルヘキト共ニ日華間ノ對等親交關係ヲササルヘ  
カラス尙戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關シテハ日華共同宣言ノ存スル  
アルヲ以テ新條約ニ於テハ之ヲ援用確認シ置クコト適當ト認ム

IMT 458

336

333

8

2382

テハ早キニ臨ミテ之ヲ封殺シ置クノ手段ヲ講セサルヘカラス此ノ  
見地ヨリ見テ本件條約改訂モ亦我政略手段トシテ右ニ資スルノ意  
義ナカルヘカラス尙本件條約ノ内容ヲ公正妥當ナルモノタラシメ  
是カ政略的效果トシテ支那以外ノ大東亞地域ニ與フル影響及米英  
側ノ對日戰爭ノ根據名目ノ剝奪トイフカ如キコトモ之カ效果ノ期  
待限度ハ兎モ角トシ一應考慮ニ加ヘ置クコト必要ナルヘシ  
敘上ノ諸點ヲ篤ト考慮ノ上條約改訂ノ目的ヲ必要網ノ通定メタリ  
三、條約改訂ノ時期ニ付テ  
條約改訂ノ日本側ニ於ケル準備完了ヲ俟チ成ルヘク速ニ歐戰兩略  
上ノ好機ヲ捉ヘ國民政府トノ間ニ交渉ヲ開始ノ上改訂ヲ實施セン  
トスルモノナリ  
三、條約内容ニ付テ  
新條約ノ内容ハ前記改訂ノ目的ニ照應スル如ク日華基本條約及附  
屬文書ニ代ハリ日華間ノ新ナル關係ノ要旨ヲ簡潔ニ明示スルコト

IMT 458

335

336

2382

6

(三) 經濟關係事項ノ處理

基本條約ニ於テハ長短相補ヒ有無相通スルノ趣旨ニ基キ且平等  
互惠ノ原則ニ依リ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ行フ旨ヲ明示ス  
ルト共ニ更ニ地域的及事項的ニ兩國間ノ經濟合作ヲ規定シアル  
處今次條約ノ改訂ニ當リ權益的思想ハ其ノ執ラサル所ナリト雖  
モ大東亞防衛上必要ナル特定資源ノ開發ニ關シテハ將來ニ互リ緊

間中ノ軍事上ノ諸要請、其他重要國防資源ノ開發利用等對日經  
濟寄與ノ實體確保ニ關スル措置ハ要綱ニ示サレタル通ナリ現行  
ノ政治的特殊性ハ理論的ニ戰爭遂行上ノ要請ト不可分ナリトハ  
稱シ難キモ其ノ重要ナルモノハ凡テ右特殊性ノ存在ヲ前提トシ  
テ實體ヲ確保セラレアリ從ツテ實際問題トシテ是カ現狀ニ急激  
且廣汎ナル變化ヲ許サレヌ差當リ對支處理根本方針ニ基キ約定  
セル調整ヲ以テ是カ目途タラシメントス

IMT 458

338

2382

335

(一) 軍事關係事項ノ處理

戰時中ニ於ケル駐兵並之ニ伴フ軍事要求權及便宜供與ハ共同旨  
言ニ依ルヘク其ノ根據ニ於テ何等支障アルヲ認メス從ツテ防共  
治安、慣例等ニ基ク駐兵權ハ條約上一切之ヲ要求スルコトナク  
北清事變最終議定書ニ基ク駐兵權モ亦之ヲ拋棄セントスルモノ  
ナリ戰後ニ於テ大東亞ノ防衛上帝國ニ於テ執ルコトアルヘキ新  
タナル措置ニ關シテハ新條約ニ於テ特ニ之ヲ律シ置カサルモ戰  
後別途日支間ニ於テ協議ノ上所要ノ態勢ヲ整備スヘキコト我方  
ノ腹案ナリトス

撤兵ニ付テハ要綱ニ示サレタル通ナリ

(二) 各地特殊性ノ處理

蒙疆、華北、揚子江下流域地域及華南沿岸島嶼ニ關シテハ從來日  
華間ノ約定ニ於テ特殊地帯トシテ制約シアリタルモノ新條約ニ於  
テハ之ヲ帝國ノ對支要請事項タラシムルコトナシ而シテ戰爭期

IMT 458

337

338

2382

8

リ從ツテ新條約ニ於テハ現行條約ノ趣旨ヲ存置スルト共ニ更ニ大東亞戰爭ヲ完遂シ東亞ニ於テ道義新秩序ヲ建設セントスル新タナル兩國國策ノ向フヘキ方途ヲ明カナラシメンカ爲大東亞ノ共同ノ建設ニ關スル協力ニ付律少置カントスルモノナリ

(六) 其他ニ關スル事項

- 1、一般顧問及職員ニ付テハ軍事顧問ト同様支那側ノ要請ニ基キ之ヲ配置スルヲ以テ本旨トス戰爭間ニ於テハ帝國ノ軍事上經濟上ノ諸要請ニ付是カ圓滑ナル運営ヲ期スル見地ヨリ當然所要ノ顧問職員ノ配置ハ之ヲ必要トセラルヘシ但シ現狀ニ付テハ對支處理根本方針ニ基キ豫期シアル調整ヲ考慮スヘキハ當然ナリ
- 2、外交事項及文化提携ニ付テハ要綱ニ示サレタル通トス
- 3、治外法權ニ關シテハ既ニ是カ撤廢方ニ關シ別ニ協定セラル

IMT 458

340

339

2382

7

密ナル協力ヲ要アリト認メ居リ右思想ヲモ含メ互惠ヲ基調トスル緊密ナル經濟提携ヲ行フモノトセリ

(四) 經過の事項ノ處理

附屬議定書第一條ノ特殊事態及第二條ニ依リ國民政府ニ繼承セラレタル臨時政府、新政府等ノ辦シタル事項ニ付テハ既ニ調整セラレタルモノ尠シトセサルモ現存セルモノ其ノ多クハ帝國ノ戰爭遂行上絕對必要ナル軍事上、經濟上ノ諸要請ヲ敏速且圓滑ニ實施セシムヘキ基底ヲナセリ從ツテ戰後之ニ根本的調整ノ加ヘラルヘキハ當然ナルヘキモ戰爭期間中ニ於テハ是カ調整ハ特ニ慎重ナルヲ要ス敍上ノ考慮ヨリ差當リ對支處理根本方針ニ基キ約定セル調整ヲ以テ是カ目途ヲラシメタリ

(五) 善隣友好及大東亞ノ建設ニ付テ

日華間ノ善隣友好ニ關スル原則ハ兩國間ノ不變ナル基本關係ナ

IMT 458

339

2382

ル所アリ損害補償及難民救済ニ付テハ兩國間國交ノ常務トシテ  
取扱ハルヘク特ニ是カ規定ヲ要セサルモノトス

339

IMT 458

341

2382

秘

25-10月

340

日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ノ前文ト對比致シ  
(係秘内書用)

一前文ニ於キマシテハ兩國政府ハ兩國相互ニ具ノ自主獨立ヲ尊重シ  
ツツ善隣トシテ緊密ニ相協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ  
世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之ヲ障害タル一切ノ禍根ヲ  
芟除スルノ固キ決意ヲ以テ以下御説明申上ケマヌル通協定セル旨  
ヲ述ヘテ居リマス

尙之ヲ日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ノ前文ト對比致シ  
マスルト相互ニ具ノ自主獨立ヲ尊重スル旨ヲ明示シテ居リマスル  
點ト後段ニ於テ基本條約ハ兩國間ノ關係ヲ律スル基本的原則ヲ訂  
立セント欲シ云々ト相成ツテ居リマスルニ反シ本條約案ニ於キマ  
シテハ一切ノ禍根ヲ芟除スル云々ノ決意ヲ表明シテ居リマスル點  
トカ特ニ異ツテ居リマス後者ハ本條約カ同盟條約デアリマスルコト  
ニ起因シマスル相違デアリマス  
ニ第一條ニ於キマシテハ本年十一月九日附戰爭完遂ニ付テノ日華共同

IMT 458

342

REEL No. A-1209

392

2382

五 第四條ニ於キマシテハ兩國間ノ經濟提携ヲ規定シテ居リマス本條  
 ハ日華基本條約第六條ニ相應スルモノデアリマスカ同條第二項以  
 下ノ規定ハ之ヲ更メテ設ケス單ニ同條第一項ノ趣旨ヲ簡潔ニ規定  
 スルニ止ムルコト適當ト存シ右様修文致シタ次第デアリマス  
 六 第五條ハ慣例的條項デアリマス

IMT 458

344

2382

341

宣言ヲ再確認スル旨ヲ規定シテ居リマス本條約ハ同盟條約デアリ  
 マスノテ戰爭完遂ニ關スル兩國間ノ協力關係ヲ規定スルノカ當然  
 デアリマスカ右ニ關シテハ現ニ日華共同宣言カ存在シテ居リマシ  
 テ本條約ニ於テ同様ノ規定ヲ重復シテ設ケル必要モ無イデアリ  
 マスカラ寧コト同宣言ノ效力ヲ本條約中ニ確認スル形式ヲ採用スル  
 コトヲ適當ト認メタ次第デアリマス  
 三 第二條ニ於キマシテハ兩國間ノ本然ノ善隣友好關係ヲ規定シテ居  
 リマス、本條ハ日華基本條約第一條ニ相應スルモノデアリマシテ  
 同條第一項ヲ簡潔ニ書キ改メタモノデアリマス  
 四 第三條ニ於キマシテハ兩國力大東亞ノ建設ノ爲め力スヘキコトヲ  
 規定シテ居リマス  
 本條項ハ日華基本條約ニハ積極的ニ規定スル所カ有リマセン謂ハ  
 ハ新シキ條項デアリマシテ獲ニ御裁可ヲ得マシテ締結致シマシタ  
 日本國「ビルマ」國間同盟條約第二條ノ規定ト同趣旨デアリマン

IMT 458

343

344

2382

尙基本條約ト同時ニ調印セラレマシタ日滿華共同宣言ハ素ヨリ有  
 效ニ存続スルモノデアリマス  
 八附屬議定書ニ於キマシテハ日本國ハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰  
 争狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ  
 撤去スルコトヲ約スルト共ニ清國義和團議定書及關係書類ニ基ク  
 駐兵權ヲ拋棄スル旨ヲ聲明シテ居リマス  
 本條項ハ基本條約附屬議定書第三條ニ相應スルモノデアリマシテ  
 之レトノ相違點ハ(一)防共駐兵ノ留保ナキコト(二)治安確立ヲ條件ト  
 ナス規定ナク又中國側ニ對シ治安確立保障ノ責任ヲ負ハス規定ナ  
 キコト及(三)約定ニ基ク駐屯ノ留保ナキコトデアリマス  
 尙約定ニ基ク駐屯ノ主ナルモノトシテハ義和團議定書關係ノミテ  
 アリマスカ右權利ハ我方トシテ一方的ニ拋棄スル旨聲明スル次第  
 デアリマスシ他ノモノトシテハ上掲停戰協定ニ基ク駐屯權等デア  
 リマスカ之等ハ本條約ニ於テ取上クヘキ性質ノモノテナイト認メ  
 マスノデ何レモ本條約中ニ之カ存否ヲ規定セサル次第デアリマス

IMT 458

346

343

2382

第六條ニ於テ基本條約及附屬文書ハ一切本條約ニ依リ代ラルヘキ  
 コトヲ明カニシテ居リマス  
 茲ニ廢棄セラレマス文書ハ次ノ通りデアリマス  
 (一)公表セルモノ  
 日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約  
 附屬議定書  
 附屬議定書ニ關スル日華兩國全權委員間了解事項  
 (二)公表セサルモノ  
 附屬秘密協約  
 附屬秘密協定  
 秘密交換公文(甲)  
 秘密交換公文(乙)  
 昭和十五年八月二十八日第十五回正式會議議事錄拔萃  
 日支新關係調整ニ關スル協議書類

IMT 458

345

346

2382

スルモノテアリマス。ト共ニ他方ニ於キマシテ中華人民ノ一部カ  
 本條約益々ノ精神ヲ諒解セシムルニ只管同僚ノ焦慮シ現況ノ改善ニ  
 對シ急激ナル變更ヲ一方ニ加ヘ得ルヤニ誤解シ若クハ日本人民  
 同管業ヲ遂行ニ於テモ急激ナル變更ノ變化アルヤニ誤認シ總メニ  
 戰爭遂行上缺ク可ラサル經濟關係等ニ支障ヲ生シ乃至ハ日華兩國  
 官民間ニ紛糾ヲ來ス如キコトヲ防止セントスル願望ニ因テタルモ  
 ノテアリマス。

IMT 458

348

345

2382

本交換公文ニ於テハ現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項  
 (一)列ヘハ戰爭遂行ニ伴フ特殊事態及臨時ニ維新政府ノ辨シタル事  
 項等ニシテ未ダ調整セラレサルモノ)ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ  
 調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタ  
 ルトキハ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セラルヘキコト並  
 ニ戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應シ逐次兩國間ノ協議ニ  
 依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトスル旨中國  
 側ヨリ照會ヲ發シ之ニ對シ我方トシテ同意ナル旨返答スルモノテ  
 アリマス。

本交換公文ハ基本條約附屬議定書第一條及第二條並了解事項等ニ  
 相應スルモノテアリマシテ之ヲ設ケマスル趣旨ハ一方ニ於キマシ  
 テ中國側ト致シマシテハ我方ハ之等特殊事態等ノ條約上ノ基礎ヲ  
 撤廢シツツモ實際上ハ現狀ノ儘居坐ルニ非スヤトノ危懼ノ念ヲ抱  
 クモノト思惟セラレマス。テ我方ノ公正ナル眞意ヲ明カニセント

IMT 458

347



348

2382

日華同盟條約修正案 (第二案) 一八、九、二〇、

第一條及第二條

(第一案ノ通)

第三條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力シ有ユル援助ヲ爲スベシ

外務省

日本標準規格 B5  
TMT 458

350

347

2382

日華同盟條約修正案 (第一案) 一八、九、二〇、

第一條

日本國及中華民國ハ相互ノ獨立及主權ノ尊重ノ基礎ニ於テ兩國間ニ同盟ヲ設定ス

第二條

「其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ」ヲ削ル

第三條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及確保ニ付相互ニ緊密ニ協力シ兩國ノ安全ノ爲互ニ援助ヲ爲スベシ

外務省

日本標準規格 B5  
TMT 458

349

REEL No. A-1209

350  
1

2382

報  
秋

日本國中華民國間同盟條約案

大日本帝國政府及中華民國國民政府ハ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ各般ニ亘リ互助敦睦ノ手段ヲ講ス

IMT 458

352

昭和十八年九月二十日  
大本營政府連絡會議ノ解

349

2382

日華同盟條約修正案（第三案）

第一條及第二條

（第一案ノ通）

第三條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及確保ニ付相互ニ緊密ニ協力スベク兩國ノ安全、權利又ハ利益ガ危殆ニ迫ルモノアルヲ認ムルトキハ之ヲ擁護セムガ爲ニ共同ノ措置ヲ執ルベシ

ハ、九、二〇、

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

351

350  
1

2382 報

日本帝國政府及中華民國國民政府ハ  
兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ道  
義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ  
之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通  
協定セリ

第一條  
日本國及中華民國ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相  
互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ各般ニ亘リ互助敦睦ノ手段ヲ講ス

IMT 458

352

昭和十八年九月二十日  
大本營政府連絡會議ノ解

349

2382

日華同盟條約修正案（第三案）  
第一條及第二條  
（第一案ノ迪）  
第三條  
日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及確保ニ付相互ニ緊密ニ協力スベ  
ク兩國ノ安全、權利又ハ利益ガ危殆ニ迫ルモノアルヲ認ムルトキハ  
之ヲ擁護セムガ爲ニ共同ノ措置ヲ執ルヘシ

ハ、九、二〇、

外務省

IMT 458

351

REEL No. A-1209

352

2382

8

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日ニ於テ

IMT 458

翻印セリ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名

354

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ

第六條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印  
日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ其ノ一切ノ附屬文書トシ  
ニ本條約及附屬文書ニ依リ代ラルヘキモノトス

351

2382

2

第五條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラル  
ヘシ

IMT 458

第四條

日本國及中華民(國)ハ互惠ヲ基調トスル兩國間ノ緊密ナル經濟提携  
ヲ行フヘシ

353

第三條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及安定確保ノ爲相互ニ緊密ニ協力  
シ有ユル援助ヲ爲スヘシ

第二條

ヘシ

REEL No. A-1209



356

2382

5

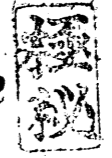
ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

IMT 458

356

353

2382



4

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

IMT 458

355

本日日本國中華民國間同盟條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

附 屬 議 定 書

第一條

日本國ハ兩國間ノ全般的平和克服シ戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スベキコトヲ約ス  
日本國ハ清國軍和團事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク駐兵權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス

第二條

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セララルベシ

REEL No. A-1209

358

2382

交換公文案

(往翰)

以書翰啓上致候本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候  
本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ  
間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在セル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ  
調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シ  
タルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セララルベシ  
戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ  
依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス  
本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候  
右回答旁本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具  
昭和 年 月 日 二於テ

IMT 458

358

357

2382

交換公文案

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名スルニ當  
リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候  
現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調  
整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克服シ戰爭狀態終了シタル  
トキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セララルベシ  
戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ依  
リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス  
本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候  
本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國 年 月 日 二於テ

IMT 458

357



361

滿洲國ノ復讐要求（我トシテハ應ジ得サルベシ）  
ニ日本側ノ對重慶條件

（一）大東亞戰爭遂進ニ對スル協力（少クモ經濟協力）

現實ヲ重ンブル支那トシテハ逐次自己國力ノ恢復ニ力ヲ入ルベク  
（之ガ不可能ナラバ強狀勢ニテ今更日本ト協力スル要ナカルベシ）  
對日協力ハ低下ノ方向ニ進ムベシ

（二）和平遂進ニ對スル支那領土ノ保障ヲ確保スルコト困難ナリ

重慶トシテハ一國強兵ト共謀シテ在支米英軍ヲ退カシメタル後日  
本ニ強兵ヲ持ハシメ之ヨリ若干ナリトモ重慶勢力ヲ盛り返ラシ  
メ機ヲ見テ再び米英軍ヲ導入スル等軍ニ日本ヲ奔走ユ成ラシムル  
ヲ圖進トスルコトナントセズ

（終）

海軍



内閣議長

中野正造 首相の建修申す

2382 極秘

總司令官汪主席會談要旨

九月十二日 於汪公館

總司令官

綿糸布買上モ政府ノ斷乎タル處置ニ依リ成功ヲ收メラレ結構ナリ

主席

之モ文邦御支接ノ御蔭ト感謝シアリ

總司令官

李士群氏突然ノ御逝去ニテ御愁傷ニ堪ヘス又爾後ノ政府人事モ電撃的

ニ適當處理セラレ結構ナリキ

主席

清郷其他ノ關係モアリ迅速ニ處置シタリ

(話題轉換)

IMT 458

362

2382

363

前同總司令官閣下ニモ申上ケタル事ナルカ例ノ大東亞圈内各屬指導者  
ヲ東京ニ集合ヤンメラレ度キ件ニ關シテハ先般青木大臣閣下ニモ申上  
ケタル所閣下ニハ單ニ帳面ニ記ラレンノミニテ意思表示ハナサレサ  
リキ贊ハ政府ニ於テモ最近ノ國際情勢ニ即應シ豫テヨリ將領會議。地  
方長官會議ヲ開催シ時局ニ對スル認識ヲ深カラシメ之ニ對スル特ニ將  
兵ノ注意ヲ鞏固ナランメント着々準備中ナル所今次伊太利ノ無條件降  
伏突發ノ事態ニモ鑑ミ愈々其ノ必要性ヲ痛感シ尙同會議前ニ自分カ東  
京ニ到リ東條總理大臣閣下ニ面會懇談シ來ルヲ得ハ會議ハ一段ト有意  
義トナルヘシト忠考シアリ固ヨリ今次ノ訪日ハ懇談カ目的ニテ一切ノ  
儀式、宴會ノ如キハ嚴ニ之ヲ行ハレサル如ク致シテ唯現在ノ時機カ  
適當ナリヤ又東條閣下ノ御都合如何カ問題ナリト思惟ス若シ總司令官

IMT 458

363



2382

閣下御異存ナクハ成ルヘク速ニ實現出來ル様何卒御斡旋願ヒ度ク然レ  
ハ東京ニ擬ツテ來リタル後本月末將領會議ヲ行ヒ來月漢口、廣東ニ到  
リ官民ヲ激勵致シ度ク考ヘアリ

總司令官

自分ノ願スル限リニ於テハ大變結構ナルコト存ス

南京ハ留守セラレテモ差支ナキヤ

訪日期日ハ何時ヲ希望セラレルヤ

主席

南京ハ三、四日留守スルモ差支ナン訪日期日ハ將領會議ヲ九月二十八  
日ヨリ開催スル所定ナルヲ以テ其ノ準備ノ都合モアリ遅クモ二十五日  
迄ニハ歸寧致シ度尙所望日數ハ往復共三日位ニテ可ナリ

IMT 458

2382

總司令官

公式訪問ナラハ大使館關係ナルヘキモ本件ハ非公式訪問ナリ又總理ハ

陸軍大臣兼勳ト謂フ意味ニ於テ當方ニ於テ御周旋申スヘシ

主席

感謝ス、宜敷ク御願ヒス

尙行動ハ自立ヲサル方法ヲ採リ度ク從テ先方ノ御希望ニ依リテハ面會

地ハ東京郊外又ハ東京以外ノ地ニテモ差支ナンド考ヘアリ

(話題轉換)

總司令官閣下ニ尙一件御相談致シ度件アリ

漢門ニ李濟探ノ元參謀長タリシ馮祝萬ト謂フ者在リ此ノ人ニ對シ先般

孫科ヨリ孫文ノ娘婿ノ戰恩養ヲ通シ汪(敢テ汪ト呼捨テドシアリ)ノ

IMT 458

365

364

364

2282

和平運動ハ見込アルランキヲ以テ連絡ヲ試ミルヘントノ暗號電報ノ指  
示アリタル由ニテ早速海軍次長ノ招桂章ヲ派遣シ置キタルカ今同重  
テ陳委員（社 汪主席夫人）ト懇談致シ度ントテ同委員ノ派遣方申越  
シ來タレリ素ヨリ陳委員ヲ指定セルハ主席夫人トシテニハアラシテ  
三十年來ノ革命ノ同志トシテノ意味ニシテ陳委員ハ重慶側ニモ知人多  
キ故ナリ

366

而シテ陳夫人ハ既ニ過日廣東ニ出發シアルモ今度馮ト會ヘハ先方ヨリ  
和平ノ條件ヲ開カルコト必定ナリ此ノ場合東條閣下、畑閣下ヨリ豫  
×「ヒンドーヲ與ヘラレアラサレハ自分トシテハ返事致シ得サルナリ  
蓋シ重慶ハ和平ノ條件トシテ必ス日本軍ノ撤兵ヲ要求スヘク此ノ問題  
ニ關シテハ我々ハ從來絶對觸ルルヲ好マス殊ニ重慶カ英米ト共同戦線

2282

367

ヲ張りアル以上殊更然リト考ヘアリタリ重慶側モ亦最近ハ撤兵ヲ言ヒ  
出スコトナカリキ  
然レトモ和平ノ條件ヲ討議セル場合ニ於テ我々ハ重慶ニ對シ重慶ニシテ  
若シ和平ヲ欲スルナラハ先ツ英米ト斷交スヘント申スヘキモ萬一重慶  
カ英米トハ斷交スヘキモ日本軍ノ撤兵ヲ如何ニヤラルヘキヤト問ハレ  
タル場合答ニ窮スル次第ナリ陳委員モ南京ト連絡無シニハ勿論回答セ  
サルヘキモ總司令官閣下ノ御意見承リ度シ

總司令官

我々ハ和平ノ條件等ハ承知シアラス本件ハ上京ノ節総理ト直接懇談セ  
ラルルヲ可トスヘシ

主席

IMT 458

367

IMT 458

366

2382

現在重慶ハ米價ニハ機嫌ヲドリアルモ英國ニ對シテハ決シテ快ク思ヒ  
アラス常ニ喰ツテカカリアリ

又伊國ノ脱落ニ就テモ表面喜ヒアル如キモ内心ハ如何ニ考ヘアルヤ不  
明ナリ蔣介石モ軍人ナレハ獨逸ノ軍備ノ最トシテ微動タモヤス發源モ  
些モ動搖シアラサルコトハ十分之ヲ承知シアルヘケレハ本心ハ宣傳ノ  
即ク喜ヒアルモノトモ思ハレサルナリ

重慶モ中月間合作出來ルト考フルニ至ラハ抗戰ノ意志ヲ放棄スヘタ又  
新政策ノ結果共存共榮出來ルト思フニ至ラハ感情上モ其ノ抗戰理論ハ  
動搖スルモノト思惟セラル此ノ如キ情勢ナルヲ以テ此ノ際一貫シタル  
思想ヲ以テ重慶ヲ反省ヤシムヘキ機會ヲ在リ之ヲ捉フルコト必要ナリ  
ト考ヘアリ某同志ハ萬一日本カ撤兵シタル場合ニハ我々和平ノ同志ハ

368

IMT 458

368

2382

369

重慶派ノ爲捕ヘラレ危險サハ感スルコトアルヘント言フモノアルモ自  
分ハ此等ノ者ニ對シテハ常ニ大局ヲ考フヘキナリトシ又日本ハ信義  
ノ固ナルヲ以テ最初ニモ此ノ如キ心配ハナカルヘント説キアリ

海司令官

然リ此ノ如キ心配ハ過言無用ナリ

又重慶トシテモ此ノ如キ考ヘテ以テ和平ニ乗り出シタル場合ニ於テハ

新ル態度ニ出スル心配ハ過言ナント信ス

(話題轉換)

允刻ノ訪日ノ件ナルカ議員ハ何人位ノ豫定ナリヤ

主席

遂少人数ト致シ慶周邊岸ノ外陳公博又ハ周佛海ノ内一人ハ上海事情報

369

IMT 458

2382

告ノ關係上陳公博ヲ可トスヘシ此ノ位ニ止ムル考ヘナリ

總司令官

要スレハ軍ノ飛行機ヲ御使用ニ供スヘシ

主 席

斯ク願ヘレハ甚タ結構ナリ福岡ニモ着陸セス甚タ好都合ナリ

總司令官

兎ニ角重慶トノ和平ハ重慶カ英米ト手ヲ切ルコト先決ニシテ其ノ後ニ於テハ寧ハ簡單ニ進ムモノト考ヘラル

主 席

390

係文先生ハ生前中日關係ヲ兄弟關係ニ例ヲトリ次ノ如ク説明セリ乃チ第一段階ハ事變勃發直前迄ニシテ此ノ時期ハ日本ハ先進國トシテ既ニ

2382

371

一應ノ發展ヲ遂ケタル狀況ニシテ兄トシテ精勵努力セサル中國テウ弟ヲ激勵シ時ニ打擲モスル爲弟ハ之ヲ以テ兄ヲ怨ムニ至リ之ニ乘シ第三者タル英米ハ弟ヲ使味シ此ノ如クシハ弟ハ遂ニハ兄ニ叩キ殺サルヘシトテ自ラ弟ニ同情ヲ賣リテ之ニ近附カントス之事變前迄ノ狀況ナリ第三段階ハ弟ハ兄ハ自分ヲ殺スニ相違ナシト盲信シ實力ヲ以テ兄ニ反抗セントシ英米ハ弟ニ對シ其ノ疲勞セルヲ見ルヤ砂糖「ブランド」等ヲ與ヘ益々反抗ヲ煽動スルモ實力ヲ以テハ何等援助スルトコロナキ狀況ナリ第三段階ハ從來ノ離間者タル英米カ直接兄ニ打掛ツテ來タレリ是ニ於テ弟ハ從來兄弟喧嘩ハ爲シ居リタルモノノ第三者カ兄ヲ打ツテ見ルニ及ビ初メテ自己ノ態度ニ反省ヲ感スルニ至レリト謂フナリ此ノ例話ハ如何ナリヤ

IMT 458

371

IMT 458

370

2382

總司令官

誠ニ同感ナリ重慶モ現在トナリテハ色々考フルトコロアルヘシ

主 席

重慶ハ租界ノ返還等ハ中國ニハ何等ノ實效ナク之ハ却テ日本ノ勢力ノ擴張ナリト稱シアルモ本心ハ大ニ喜ヒアルモノト存セラル

總司令官

然リ「中國ノ命運」ヲ讀ミテモ英米依存ノコトハ書キアラス民族ノ合同ヲ強調シアリ

主 席

重慶モ更ニ獨蘇カ妥協スル如キコトトモナレハ大ニ考フヘシ

總司令官

2382 313

372

伊國脫落ノ問題ハ當初ハ多少衝擊ヲ受ケタリシモ弱キ手足纏ビノ者カ

脫落シ却テ氣易クナリタル心地セラレルナリ

但シ英米ハ謀略宣傳巧妙ナルヲ以テ之ニ乘セラレザル様御互注意カ肝

要ナリ

蘇聯モ最近ハ甚タ弱リタル様子ナリ

主 席

心配ナルハ獨國カ弱リハセヌカノ言フコトナリ

總司令官

獨國ニ關シテハ絶対大丈夫ナリ獨軍ハ既ニ守勢態勢トナリ内部ニ國防

資源並ニ食糧ヲ確保シアルヲ以テ持久ハ容易ナリ

(其ノ他總司令官ヨリ各國國內情勢及戰局等ニ關スル説明アリタルモ

IMT 458

373

IMT 458

372

374

2382

之ヲ略ス

陪席者

樋澤 参 謀

周隆庠行政院秘書長

IMY 458

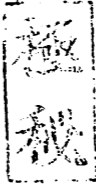
374

REEL No. A-1209

0202

アジア歴史資料センター





375

375

重光外務大臣陳公博氏會談要録

(昭和一八九年ニリ)

外務大臣官舎ニ於テ(十八時半至十九時)

陳

本日ハ汪主席ト共ニ東條首相ト會談セルカ午前一時半ヨリ同六時半迄五時間ノ長時間ニ亘リ、國際情勢ニ條約改訂問題ト和平問題ニ新政策ノ實行問題ニ付意見ヲ交換シ更ニ首相ヨリ大東亞戰爭ノ情況ニ付説明アリタリ

條約改訂問題ニ付テハ首相ヨリ七ツノ要點ヲ舉ケテ説明セラレ重慶トノ和平問題ニ付テハ若シ重慶側カ英米ト手ヲ切ルニ於テハ日本ハ支那ヨリ撤兵スヘキ旨明言セラレタリ最近孫科ノ代表馮祝萬(前李濟深參謀長、前廣東財政廳長、廣東人ニシテ桂系

外務省

IMT 458

375

376

外務省

ト見ラルル人物)及孫科ノ老母(七十八歳、孫文ノ舊夫人)孫科ノ妹夫戴恩賽(廣東人)王李文(廣西人、政客)ハ澳門ニ於テ陳璧君ト會見セルカ右ハ孫科ノ老母カ孫科ニ書翰ヲ寄セ日支事變ノ和平的解決ヲ勸メタル結果ニシテ孫科ハ蒋介石ニ之ヲ告ケ蔣ノ諒解ヲ得若シ話合進行セハ蕭宣、吳忠信及朱家驊ノ三名ヲ派遣スヘシト言ヒ來レリ蕭宣ハ湖北人、曾テ湖北省民政廳長ヲ勤メ老國民黨員ニシテ蒋介石ト個人的ニ親シク風水ノ先生ナリ吳忠信ハ安徽省人、前安徽省政府主席、鈕永建、陳其美等ト同輩ナリ朱家驊ハ浙江省人前教育部長、交通部長現ニ國民黨組織部長ナルカ所謂中立派ニシテ何派ニモ偏セス兩人トモ蒋介石ト親シク同時ニ汪精衛氏ト特殊ノ關係アリ此ノ三名ヲ派遣スル

日下松平規格B5

IMT 458

376

378

2382

377

2382

テ引返シタルヤモ圖リ難シ本件ハ未タ何處迄發展スル可能性アルヤ不明ナルモ今迄ノ所謂重慶工作ニ比スレハ最モ確實性ニ富ムモノト謂ヒ得ヘシ

日本ノ對華新政策ニ付テハ汪主席ヨリモ現地ニ於ケル實行振ノ不徹底ナルコトヲ指摘シテ日本側ノ努力ヲ要望セルカ自分モ二三ノ事例ヲ舉ケテ補充的説明ヲ試ミタリ上海租界還付後ノ第一區ノ區域問題ノ如キ租界ノ擴張ト評セラルルモ致方ナキ情況ナリ(トテ地圖ヲ示シテ説明ス)又第一區ノ教育ノ如キハ市政府教育局ニテ指導監督シ得ス自動車ノ鑑札ノ如キモ統一ヲ肯ンセス第一公署ニ於テハ市政府ノ訓令ニ接スレハ先ツ訓令ヲ檢討シテ見ルト云フ態度ナリ又物價問題ハ棉糸布ノ強制買上ニ依リ低

外務省

日土標準規格B5

IMT-458

378

コト事實トセハ相當考ヘタル上ノコトト察セラル馮祝萬ハ陳璧君ニ對シ(一)日本ノ條約改訂ニ對スル誠意如何其ノ内容ハ眞ニ中國ノ獨立自主ヲ保障スルモノナリヤ(二)全面和平ニ對シ日本ニ撥兵スル決心アリヤ(三)沿海各省ハ全面和平ノ際如何ニ處理スルヤノ三點ヲ質問セリ陳璧君ハ第三ノ問題ハ即チ國民政府ノコトヲ指スモノナルヘキカ和平實施ノ曉ハ何等問題ト成ラス第一ハ既ニ東條總理カ屢々公開ノ席ニテ言明セル所ニシテ日本ノ誠意ハ疑フノ餘地ナシ唯第二ノ撤兵ノコトハ日本側ノ問題ナルニ付即答シ得ス一應國民政府ニ尋ネ見ルヘシト答ヘ置キタル趣ナリ尙重慶側ノ三名ノ代表ノ内蕭宣ハ韶關迄出テ來リ居リタルカ澳門ニ來ラス勿々トシテ桂林ニ歸レル由ニテ或ハ伊太利ノ事態ヲ見

外務省

日土標準規格B5

IMT-458

377

REEL No. A-1209

0209

アジア歴史資料センター

380

2382

外務省

末梢マテ徹底セサル爲メナリ今後一層之カ徹底ニ努力スヘシト  
述ヘラレタリ

重光 時間モ迫レルニ付今晚食後更ニ會談スルコトト致度シ  
陳 喜ンテオ話致度シ

日下標準規格B5

IMT 458

380

379

2382

外務省

下ノ方向ニ向ヒタルハ幸ナルカ根本的ニハ生産ノ増強カ肝要ナ  
リ然ルニ最近浦東ノ「アルコール」工場及南京ノ龍潭「セメン  
ト」工場ノ如キ日本側ノ手ニ依リ持去ラレ一般企業家ニ恐怖心  
ヲ與ヘタリ中國側モ戦争ニハ充分協力スル氣持ナルニ付全般的  
計劃ノ下ニ國民政府ト協議ノ上カカルコトハ實行セザルコト  
ト致度シ既往ハ致方ナキモ今後ハカカルコトナキ様希望ス又人  
民ノ生命財産カ國民政府ヨリ保障セラレサル爲人民ノ政府ニ對  
スル信賴ハ期待出來ス現在ニテモ日本ノ軍、官憲ハ勝手ニ中國  
人ヲ逮捕拘留スル風アリカカルコトハ今後ハ是非政府側ニ通報  
セラレ中國官憲ニ於テ處分スルコトト致度シ此等ノコトハ總理  
ニモ話シ置キタリ總理ハ所謂親ノ心子知ラスニテ中央ノ意旨カ

日下標準規格B5

IMT 458

379

REEL No. A-1209

0205

アジア歴史資料センター

382

2382

シテ日本ヲ信用セサルヘシ或ル者ハ日本カ國民政府ト條約ヲ締結スルトキハ重慶側ハ益々國民政府ト對立シ和平ノ時期遠サカ  
ルヘシト言フモ元來條約ハ日本ト中國トノ間ニ結ハルルモノニ  
シテ決シテ一政府トノ間ニ結ハルルモノニ非ス故ニ其ノ締結ノ  
當事者カ何人ナルヤハ問題ニ非ス將來全面和平實現セハ兩政府  
ノ合流ノ如キハ内政問題トシテ自然ニ解決シ得ラルヘシ決シテ  
困難ナル問題ニ非ス重慶側カ問題トスルハ締結ノ當事者ノ如何  
ニ非スシテ寧ロ條約ノ内容カ果シテ中國ノ獨立自由ヲ保障スル  
ニ足ルモノナリヤ否ヤノ點ニアリ中國全國民ヲシテ日本ヲ信賴  
セシムル爲ニモ成ルヘク速カナルヲ良シトス國民政府ハ條約ヲ  
締結シテ其ノ手柄ヲ横取セントスル底意ヲ以テ言フニ非ス

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

382

381

2382

重光 條約改訂ハ最モ有效ナル時期ヲ擇フコト然ルヘシト思フカ如何  
陳 條約改訂ノ時期ニ就テハ日本側ニ於テモ速カニ國民政府トノ  
間ニ締結スヘシト爲スモノト重慶カ和平ニ参加スル時ニ締結ス  
ヘシト爲スモノト二種ノ議論アリ而シテ後者ノ議論カ多數ヲ占  
ムル様見受ケラルルカ此ノ點ニ付政府側ノ意向ヲ確ムルコトカ  
汪主席今回訪日ノ一目的ナリシ譯ナリ  
自分個人ノ意見トシテハ速カニ國民政府ト締結スル方却ツテ重  
慶カ和平ニ参加シ易クナルヘシトノ見込ナリ何トナレハ條約改  
訂ヲ口ニスルタケニテ現實ニ締結シテ見セサレハ重慶ハ依然ト

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

381

REEL No. A-1209

0206

アジア歴史資料センター

384

2382

然發表スル方ヨシ自分ハ香港ヲ出テ國民政府ニ參加スル時モ特ニ重慶側ニハ公然通告シテ出テ來レル者ナリ今回ノ條約ハ日支永久ノ條約ナルヲ以テ最初ヨリ公然話合ヲ進メ重慶側ノ意見ヲ徵シテ差支ナシソレテ重慶側カ來レハヨシ來ラサレハ締結シテ發表スルト云フ具合ニ公然ニヤル方ヨロシカルヘシ

重光 國民政府ト重慶側トノ合流ノ方式ヲ考ヘ居ルヤ

陳 一方カ一方ヲ收容スルト云フカ如キコトナリ何レモ東亞ノ立場ニ於テ一緒ニナルト云フ建前ニテ合流スルコトト致度シ日支ノ關係亦然リ何レノ側ニ於テモ光榮アル和平トシテ東亞ノ一新紀元ヲ作ル氣持ニテ和平ヲ實現致度シ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

384

383

2382

重光 日本ノ眞意ハ是レ以上ニ明瞭ナルコトハナカルヘシ若シ全面和平成リ重慶側ト一緒ニナリタル上條約ヲ改訂スル方内政上ヨリスルモ好都合ニ非スヤ

陳 今迄ハ日本側ニ於テ重慶工作ヲ行ヒ來レリ今後ハ國民政府ノ手ニ依リ行フ譯ナルカ國民政府ト重慶政權トノ合流ハ中國側タケニテウマク行クモノト思フ吾々ハ重慶側カ欲スルニ於テハ全部政權ヲ重慶側ニ譲リテモ差支ナシ少クモ國民政府ノ幹部ハ斯カル<sup>漢</sup>坦白ナル考ヲ有スルコトヲ保證スルモノナリ

要スルニ條約ハ内容カ問題ナリ合流ハ寧ロ維新政府ト合流ノ時ヨリ簡單ナリトサヘ考ヘ居レリ

尙今回ノ條約ハ何等秘密ニスル必要ナキヲ以テ公然締結シテ公

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

383

REEL No. A-1209

386

2382

ナラハカカル面子ニハ拘ラヌ筈ナリ又國民政府カ條約ヲ締結ス  
レハ單ニ國民政府タケノ手柄ニナリ重慶側ハ「ソツポ」ヲ向ク  
ヘシトノ議論アルモ實際ニハ重慶カ來リテ始メテ條約カ實行セ  
ラルル譯ナルニ付決シテ國民政府ノ手柄トハナラス  
今日東條總理トハ改訂ノ時期ヲ定メサリシカ改訂ノ時期ニ付テ  
何等御意見アリヤ

重光 自分モ早く締結スルヲ宜シト思フモノナルカ唯和平ハ固ヨリ  
中國國內ノ問題ナルモ國民政府還都ノ目的ハ元來和平建國ニア  
リ即チ和平ノ爲メニハアラユル努力ヲ拂フヘキ立場ニ在ルヲ以  
テ今回ノ條約改訂ニ際シテモ既ニ其ノ内容ハ承知サレタル譯ナ  
ルニ付正式ニ締結スル前ニ重慶側ニ對シ説得ノ方法ヲ講スルコ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

386

385

極秘

2382

重光大臣汪主席會談要録

昭和十八年九月二十二日於迎賓館二十三時至二十四時  
二十分

重光 本日總理トノ間ノ會談ノ模様ハ陳公博氏ヨリ承リタリ今回ノ  
新タナル問題ハ條約ノ件ト和平問題ナリ條約ニ關スル日本側ノ  
用意ハ本日總理ヨリ述ヘタル通りナリ和平ノ問題ハ元來中國國  
内ノ問題ニシテ主席ノ努力ニ期待スル次第ナルカ若シ幸ニ實現  
セハ日本トシテモ喜フ所ナリ和平促進ニ付テ今後ノ方策ヲ考慮  
シ居ラルルヤ

汪 條約ノ締結ハ速カナレハ速カナル程宜シ重慶側ノ面子云々ト  
ノ議論アルモカカル面子ハ願ル必要ナシ彼等カ眞ニ國ヲ愛スル

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

385

REEL No. A-1209

0208

アジア歴史資料センター

388

2382

タリ是レテ重慶側ニ對スル態度ハ「ハツキリ」シタル次第ナリ  
 蔣介石ハ「中國ノ命」ヲ著シテ中國ハ一月十一日英米トノ間  
 ニ不平等條約撤廢ノ條約ヲ結ヒタリト記シ居ルヲ以テ當時國民  
 政府宣傳部ハ報道部ト相談ノ上中國ノ不平等條約ヲ撤廢セルハ  
 事實上日本ニシテ其ノ期日モ英米ヨリモ早ク一月九日ニ既ニ條  
 約ヲ締結セルモノナリトテ之ヲ反駁シ置キタリ當時重慶側ノ機  
 關紙大公報及掃蕩報ハ重慶側ハ英米トノ間ニ平等ノ新條約ヲ結  
 ヘルカ南京側ト日本トノ間ノ日華基本條約ニハ尙不平等ノ條項  
 存在ストノ非難セリ今回若シ此ノ新條約ヲ締結スレハ斯カル重  
 慶側ノ口實ハ失ハルル譯ナリ、從ツテ重慶側ニ對シテハ今回ノ  
 條約ニハ不平等條項ハ存在セスト告クルタケニテ事足ルヘシ重

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

388

387

2382

ト内政上便宜ニ非スヤ  
 汪 重慶側ノ代表者ト目下連絡中ナルカ重慶側ノ代表ノ一人ナル  
 蕭宣ナル者途中ヨリ再ヒ桂林ニ引キ返シタル事實アリ是レハ確  
 カニ伊太利脱落ニ驚キタル結果ト思惟セラルルカスカル「アヤ  
 ファ」ナル氣持ニテハ駄目ナリ彼等ニ誠意ナキニ拘ラス漏ラス  
 トキハ却ツテ彼等ニ乗セラレルル惧アリト考フ  
 重光 其點ハ吾々モ判斷シ兼ヌル所ニテ篤ト事情ヲオ尋ネシタキ所  
 存ナリ  
 汪 本日東條總理モ彼等カ謀略的ニ當方ノ意向ヲ探ルナラハ警戒  
 ノ要アリ若シ眞面目ノ話ナラハ日本ハ重慶カ英米ト手ヲ切ルニ  
 於テハ撤兵シテヨイト「ハツキリ」告ケテモ差支ナシト言ハレ

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

387

REEL No. A-1209

0209

アジア歴史資料センター

390

2382

速本日ノ總理ノ言明ノ通り撤兵ノコトヲ重慶側ニ告ケタキ心算ナリ自分カ言フ以上差支ナカルヘシ重慶モ轉向ノ「キツカケ」無キニ苦シミ居ル實情ナルニ付此ノ一言カ抗戰放棄ノ「キツカケ」トナルヤモ知レス或ハ重慶側ハ一旦屈服スレハ伊太利ノ「バドリオ」政權ノ如キ境遇ニ陥ルニ非スヤト危惧スヘキモ事態ハ全然異ナリ日本モ撤兵シ英米ニ對シテモ撤兵ヲ要求シ英米カ聽カサレハ之ヲ討ツコトモ出來得ヘシ蕭宣カ途中ヨリ引返シタルハ伊太利ノ事態ヲ見テ俱レタル結果ナルヘシ  
兎モ角重慶側ニハ先ツ此ノ撤兵ノ事ヲ話シテ見ル心算ナリ條約ノ方ハ重慶ノ來ル來ラサルニ拘ラス速カニ發表スルコト然ルヘシト考フ

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

390

389

2382

慶側ヲシテ英米ト手ヲ切ラシムルコトヲ勸メルコトカ寧ロ要點ナリ重慶側カ英米ト手ヲ切ルニハ困難ナル點ト然ラサル點トアリ困難ナル點ハ重慶側カ單獨不媾和條約ニ加盟シ居ル關係上英米ト手ヲ切ルコトハ盟約違反トシテ責メラルルコト竝ニ英米ノ軍隊特ニ米國ノ空軍カ相當多數駐屯シ居ルコト及經濟關係ニ於テ英米ト相當深ミニ入り居ルコト此等ヲ排除シテ武装解除マテ斷行スル勇氣ト力トアリヤ否ヤニ在リ又英米ト手ヲ切ル可能性ノ方面ヲ言ヘハ第一抗戰ノ理由カ消滅セル以上抗戰ヲ繼續スルコトハ内心必ス苦痛ナルヘキコト第三米國ノ空軍カ不斷ニ武漢廣東等ノ都市ヲ爆撃シ無~~事~~ノ中國同胞ヲ殺傷シツツアルコトハ内心極メテ苦痛ナルヘキコト是レナリ自分ハ南京歸着ノ上ハ早

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

389

REEL No. A-1209



392

2382

ハ無シ又英米トノ新條約ニ於テ移民制限撤廢ノ項目アリトテ重慶側ハ得意トナリ居レリ

重光 英米トノ條約ニハ移民ノ條項ハ無カリシ様記憶シ居ルカ如何

汪 「中國ノ食運」ニ記シアリシ様記憶ス(トテワザワサ携帯セル「中國ノ食運」ヲ取出シ負リ繰リテ見ル)成ル程言ハルル通り條約ニハ明記ナシ但シ移民制限モ撤廢セラレタルモノトシテ英米トノ條約ニ於テ撤廢セラレタル不平等條項ヲ羅列セル最後ノトコロニ其ノ他トシテ包括的ニ記シアリ

重光 此ノ際自分ノ考ヲ申述フヘシ帝國政府トシテハ固ヨリ汪主席ノ指導スル國民政府ヲ中華民國ノ政府トシテ承認シ全權ノ信賴ヲ寄セ中國ノコトハ全部汪主席ノ思フ通りニヤルコトヲ期待シ

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

392

391

2382

重光 條約ハ重慶側ニ話シタル上締結スルヤ

汪 條約改訂ノコトハ日本側ハ既ニ議會ニ於テモ發表シ居ルヲ以テ彼等ハ當然知悉シ居ルヘシ又其ノ内容モ大體想像シ得ラルヘシ之レカ改訂及公表ハ日本側ノ好ム時期ニテ宜シ

最モ大切ナル問題即チ英米ト手ヲ切レハ日本ハ撤兵スルト云フコトハ南京歸着ノ後直チニ重慶側ニ告ケタシ

東條總理ヨリモ明白ニ表示セラレタリ

重光 此ノ點ハ總理ヨリ言ハレタル通り告ケラレテ差支ナシ條約ノ一部トシテ言ハレテ然ルヘシ

汪 本日總理ヨリ承リタル新條約ノ内容ナルモノハ大體英米ト重慶トノ間ノ新條約ト同様ナルカ唯經濟提携ノ條項ハ彼等ノ方ニ

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

391

REEL No. A-1209

394

2382

注  
 困難トナリ或ハ一部分ノ駐兵ヲ要求スルコトサヘアリ得ヘシ此  
 ニ由リテ觀ルモ現在ハ正ニ事變解決ノ絶好ノ機會ナリ之レヲ大  
 局ヨリ言ヘハ中國ヲ救ヒ東亞ヲ救ヒ日支共ニ亞細亞ニ歸ルヘキ  
 時期ナリ中國ノ將來ノ爲メ否亞細亞全體ノ爲メナリ更ニ重大ナ  
 ル問題アリ即チ共產黨及蘇聯トノ關係ナリ右ハ將來ノ一大問題  
 ナルカ此ノ點ヨリスルモ日支兩國カ和平ヲ恢復スルコトハ今カ  
 最モ好キ機會ナリ現在日本ハ中國ヨリノ撤兵ヲスラ決意シ中國  
 ノ希望ハ完全ニ實現セラルコトナレリ重慶側トノ關係ハ固  
 ヨリ中國國內ノ問題ニシテ汪主席ノ爲スヘキ工作ナルカ吾々ハ  
 其ノ努力ニ期待シテ已マサルモノナリ  
 三年餘ノ努力今尙成功セサルモ元來重慶ヲ脱出シ來レルハ全

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

394

393

2382

居ルモノニシテ其ノ點ハ充分御承知ノ通ナルカ唯現在東亞ノ全  
 局ヨリ判斷シ今迄ノ如キ悲シムヘキ日支ノ關係ヲ打開スルニハ  
 今カ最好ノ機會ニ非スヤト察セラル即チ日本側ヨリ言ヘハ現在  
 ノ氣持ハ日支事變發生當時トハ全ク異ナリ廣大ナル南方ヲ手中  
 ニ收メ中國ヨリ撤兵シテ中國本來ノ姿ヲ恢復スルコトハ道義上  
 ノミナラス利害關係ヨリ云フモ日本ノ欲スル所ナリ中國側ヨリ  
 云フモ日本ヲシテ撤兵セシメ中國本來ノ面目ニ立歸ルニハ今カ  
 最モ都合ヨキ時期ナリ若シ今後日本カ戰爭ニ大勝利ヲ博スル迄  
 待ツトキハ假令其ノ方針ハ變ラストスルモ見ス見ス機會ヲ失フ  
 コトトナルヘク之レニ反シ日本ノ戰爭ニ對スル立場カ萬一思ハ  
 シクナラサルニ到レハ(斯カルコトハ無シト信スルモ)撤兵ハ

外務省

日本標準規格B5

IMT 458

393

396

2382

重光 全面和平實現ノ順序如何

汪 蔣介石ニハ個人的ニ一ノ困難アリ即チ孔、宋兩家カ米國ヲ過信シ其ノ財産ヲ舉ケテ彼レニ寄托シ居ル爲メ此ノ影響ハ蔣ニモ及ヒ容易ニ英米ヨリ脱却シ得サル立場ニアルコト是レナリ蔣以外ノ將領ノ困難トスル所ハ彼等カ一緒ニ居レハ纏リタル力アルモ一旦分散スレハ忽チ日本ヨリ消滅セララルコトヲ惧ル居ル點ニアリ故ニ新政策ヲ着々遂行シ新條約ヲ締結シ抗日ノ名目ヲ覆滅スルコトカ根本方策ナリ其ノ他不斷ニ彼等ヲシテ反省セシムルコト肝要ナリ尤モ蔣ハ軍人ナルヲ以テ戰局ニ付テハ相當ノ認識アルヘク獨逸ノ戰略等ニ付テモ表面的宣傳トハ別ニ能ク知り居ル筈ナリ

外務省

日土標準規格B5

IMT 458

396

395

2382

面和平促進ノ爲ナリ例ヘハ自分ハ一探險家ナリ若シ幸ニ大陸ヲ發見スレハ之レヲ彼等ニ報告シテ來テ貰フタケナリ此ノ意味ニ於テ國民政府ノ強化ト全面和平トハニニシテ而シテ一ト信シ居ル次第ナリ

外務省

日土標準規格B5

IMT 458

395

REEL No. A-1209

398

2382

汪 事業ノ完成ヲ助クルコトトナルヘシ主席ノ事業ハ正ニ孫文ノ遺囑ヲ繼キ孫總理ノ未タ果ササリシ事業ヲ完成スルニ在リ南京ニハ谷大使在勤スルニ付充分連絡セラルヘシ吾々ハ東京ニ在リテ出來得ル限り援助スヘシ

汪 感謝ニ堪エス國民政府ノ政績ヲ舉ケ全面和平ヲ促進スルニ努カスヘシ新政策實行ノ障害ニ付テハ本日總理ニモ述ヘテ之レカ是正方要望シ置ケリ陳公博モ補充的説明ヲ爲シタルカ其ノ際總理ハ親ノ心子知ラストノ譬ヲ引キテ話セラレタリ

重光 其ノ事ハ先刻陳公博ヨリモ承リタリ新政策實行後好イ方面モ澤山アルヘシ惡イ方面ハ勿論之レカ是正ニ努カスヘシ中國側ヨリモ斯カルコトヲ遠慮ナク話スル人ヲ隨時東京ニ派遣セラレタ

外 務 省

IMT 458

398

397

2382

世ニハ國民政府ノ存在ヲ以テ重慶ト日本トノ接近ヲ妨クルモノナリト言フ人アルモ斯ルコトノ無稽ナルコトハ蔣介石モ知り居レリ一般ノ宣傳ニハカカルコトヲ言フカモ知レヌカ單ナル宣傳ニ過キス

重慶ヨリ人カ來レハ誠意ノ有無ニ拘ラスヨク話シテ聽カセル心算ナリ條件等ノ話出テタルトキハ固ヨリ逐一日本側ト打合せ應酬スヘシ

重光 伊太利ノ脱落ハ却ツテ獨逸ノ作戰ヲ自由ナラシメ且ツ獨逸ノ對外政略ヲ活潑ニ運用セシムル契機トナリ一方之カ爲メ蘇聯ト英米トノ~~格~~格ヲ來シ其ノ利害關係日ニ深刻ヲ加ヘ來レル實情ナリ斯カル情勢ナルヲ以テ近キ將來世界ノ情勢ハ變化シ主席ノ大

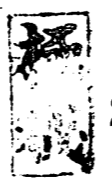
外 務 省

IMT 458

397

REEL No. A-1209

本稿ハ  
 日華  
 協約ニ  
 対スル  
 見解  
 也  
 大東亞省



2381

本件日華協約案ハ市面外交上重大ナル禍根ヲ生スルノ虞ナキヤ。即チ  
 一市面外交ノ拘束——將來久シキニ亘リ市面外交ノ手ヲ縛リ其ノ  
 進性ヲ再スルノ虞ナキヤ。  
 凡ソ一國カ他國ト同盟ヲ結フヤ否ヤハ國家ノ安危ニ關スル重大  
 事件ナリ。今日起ノ事例ニ觀スルニ同盟ハ結果ニ於テ平和ハ具タル  
 ヲリハ寧ロ戦争ハ具トナリタル場合少ナカラス。蓋シ同盟ハ國際  
 間ノ對立抗爭ヲ前提トスルト共ニ同盟ノ成立ハ却テ益々其ノ對立

大東亞省

IMT 458 400

2382

シ周佛海氏ヤ林柏生氏ナト時々來ルコトヲ希望ス  
 汪 周佛海氏ハ來月來ル筈ナリ  
 重光 ソレハ結構ナリ

外務省

IMT 458 399

REEL No. A-1209

401

2382

大東亞省

抗爭ヲ激化スルニ至ルヲ常トスレハナリ。  
 凡ソ國家カ變轉極リナキ國際政局ニ處シ外交ノ主動性ヲ保持シ過  
 時過期ニ離脱無時ノ政略ヲ用フルノ餘地ヲ存セントセハ其ノ外交  
 的立場ハ出來侍ル限リ拘束セラレサルヲ要ス。而シテ同盟ハ一國  
 外交路線ノ方向ヲ決定的ナラシメ外交上ノ進路ヲ拘束限定スルノ  
 最も大ナルモノナリ。故ニ何レノ國ト雖モ同盟ヲ締結スルニ當リ  
 アハ眞ニ之ヲ必要トスル事情ノ存否、相手國ノ選定、之カ他國ニ  
 及ボス影響、其ノ期限等ニ付周密精到ナル検討ヲ加ヘタル上決ス  
 ルモノトス。

然ルニ日支間ニ共同宣言ノ存スル現在右ト別個ニ新ニ同盟關係ノ

IMT 458

402

400

2382

大東亞省

設定ヲ必要トスル事情詳カナフサルノミナラス本同盟條約案中同  
 盟條項ト目スヘキ第三條ヲ見ルニ同盟ノ目的ハ極メテ汎汎ナルノ  
 ミナラス最も重要ナルヘキ國際義務發生事由及援助手段ニ付何等  
 ノ制約ナク又同盟條項ノ有効期限ノ限定ナシ。斯クノ如キハ帝國  
 外交史上未ダ前例ヲ見サル所ニシテ餘リニモ帝國外交ノ手ヲ縛リ  
 其ノ離脱性ヲ拘束スルコト甚シク外交運営ノ大本ニ侵蝕スルノ虞  
 ナキヤ。

IMT 458

401

REEL No. A-1209

403

2382

トニ對スル彼等ノ反應如何ナルヘキヤ。事實上ノ關係トシテ施策スレハ良キモノヲ表面カラ「同盟」ヲ標榜シ強制スル結果支那側ノ反撥心ヲ誘致スルコトトアリ却テ全面和平ヘノ途ヲ封止シ又全中國ノ對日接近ヲ阻害スルノ虞ナキヤ。其ノ虞ナキニ非ストセハ之ニ對シ如何ナル用意ヲ有スルヤ。(重慶工作上モ切札ヲ殘シ置クヲ可トストノ論モアランカナレト重慶工作上ノ觀點ヨリスレハ實際問題ヘ重慶トノ話合ノ際切札ヲ問題ニスルコトニアラスシテ寧ロ重慶トノ話合開始ヲ可能ニ導ク前提條件ヲ作ル爲ニ「同盟」カ障害トナルコトナキヤ否ヤニアルニアラスヤ)

三「ソ」聯ニ與フル影響「ソ」聯ハ本同盟條約ヲ以テ「ソ」聯ヲ

大東亞省

IMT 458

404

402

2382

三支那ニ與フル影響一支那ヲ惹キ付ケントスル我對支國策ノ實現ニ却テ障害トナルノ虞ナキヤ。

極力支那ヲ日本ニ吸引シ日支ノ關係ヲ出來得ル限り緊密ナラシムルノ要アルコトハ敢テ贅言ヲ俟タス。從テ日支ノ關係ヲ事實上同盟的關係或ヘ夫レ以上ニ迄深メテ行クコトハ極メテ望マシキコトニシテ此ノ點ニ付テハ何等ノ疑問ナシ。唯問題ヘ「同盟條約」ヲ押シ付クルコトカ果シテ實際上支那ヲ惹キ付クル所以ナルヤ否ヤニアリ。重慶ヘ勿論支那一般カ果シテ日本ニ對シ「同盟」ヲ以テ縛リ付ケラルルコトニ付如何ニ感スヘキヤ。況ンヤ大東亞戰爭中ノミナラス戰後ニ亙リテモ永遠ニ「同盟」ヲ以テ拘束セラルルコト

大東亞省

IMT 458

403

REEL No. A-1209

目。標。ト。ス。ル。モ。ノ。ナ。リ。ト。ノ。疑。惑。ヲ。抱。キ。益。々。米。英。陣。營。ト。ノ。連。繫。ヲ。強。化。ス。ル。ニ。至。ル。ノ。虞。ナ。キ。ヤ。

凡ソ如何ナル國ト雖モ漫然同盟條約ヲ締結スルモノニアラス。同盟條約トイフ以上隱約ノ間ニ必ス第三敵國ヲ目標トスルコトヘ當然ニシテ又之カ一般ノ通念ナリ。現在日支間ニハ米英ヲ目標トシテ共同宣言ノ存スルアリ。從テ米英ニ對抗スルカ故ニハ改メテ同盟ヲ結フノ要ナシ。併モ此ノ際新ニ同盟條約ヲ結フ以上必ス「ソ」聯ヲ目標トスルモノニ相違ナシトノ強固ヘ殆ント外交常識ニ屬スヘク況ンヤ猜疑心深キ「ソ」聯ヘ本同盟條約ヲ以テ對「ソ」同盟ナリト斷斷スヘシ。目下日「ソ」關係ノ調整ヘ帝國戰爭指導

大東亞省

ノ大本ニ係ハル重大事項ナリト思慮セラルル處本件同盟條約ハ帝國ノ對「ソ」敵愾ノ根本方針ト矛盾シト「ソ」關係ヲ惡化セシムルノ虞ナキヤ。其ノ虞ナキニアフストセハ之ニ對シ如何ナル用意ヲ有スルヤ。

大東亞省